

愛知県建築工事積算チェックマニュアル

愛知県建設局

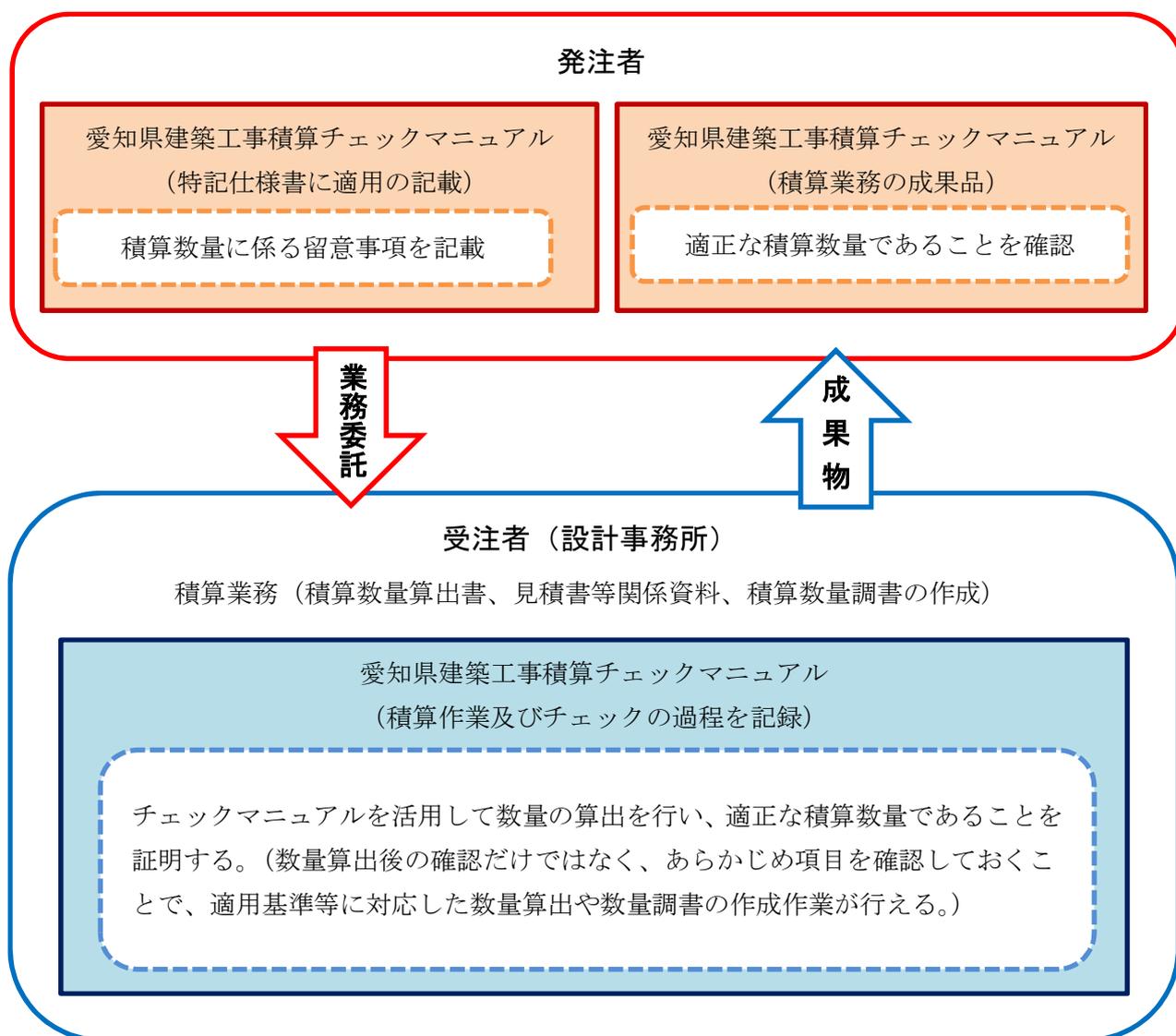
令和4年10月版

1. 目的

愛知県建築工事積算チェックマニュアル（以下「チェックマニュアル」という。）は、愛知県建築局発注工事の積算数量の精度向上を図るとともに、積算業務の各過程において、チェックすべき項目や数量確認のための数値指標等を整理してとりまとめたものである。

チェックマニュアルは、積算数量算出において留意すべき項目等を取りまとめたものであり、受注者が積算数量算出時にチェックを行うことで適正な積算数量であることを発注者に対して証明するために活用し、成果物として提出するものとする。

発注者は、受注者から提出されたチェックマニュアルを活用し、成果物の内容が適正な積算数量となっていることを確認し、質疑等がある場合は受注者へ確認することで、内容の確認、把握を行う。



2. チェックマニュアルの構成

(1) チェックマニュアルの構成

建築工事積算チェックマニュアル	
建築工事	① 数量算出チェックリスト (新営工事・改修工事) ② 数量チェックシート (新営工事・改修工事) ③ 単価資料等チェックリスト ④ 単価等設定チェックリスト
電気設備工事	① 数量算出チェックリスト (新営工事・改修工事) ③ 単価資料等チェックリスト ④ 単価等設定チェックリスト
機械設備工事	① 数量算出チェックリスト (新営工事・改修工事) ③ 単価資料等チェックリスト ④ 単価等設定チェックリスト

①数量算出チェックリスト

受注者（設計事務所等）が積算数量算出時に、積算すべき仕様・規格毎の項目や数量積算上留意すべき事項について確認するためのチェック項目。

②数量チェックシート(建築工事のみ)

受注者（設計事務所等）が積算数量調書作成時に計上する積算数量について、過去の工事等から算出された数値指標と比較確認するための計算シート。

③単価資料等チェックリスト

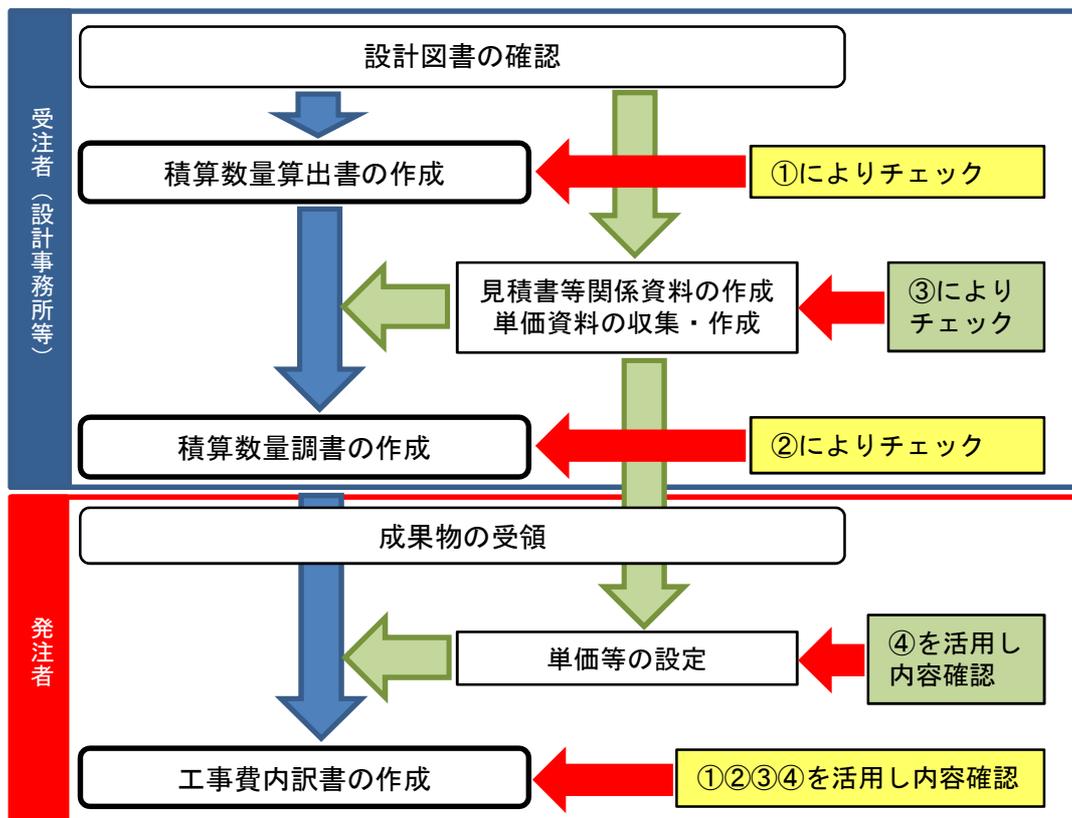
受注者（設計事務所等）が単価資料等作成時に、適用条件や見積書の項目等、積算上留意すべき事項について確認するチェック項目。

※単価資料等：単価等を設定するために参考とする資料を指す

④単価等設定チェックリスト

主に発注者が単価設定時に、留意すべき事項。

(2) 積算作業におけるチェックフロー



3. 各チェックリストの確認欄

積算担当者が以下の記入を行い、管理技術者がチェックリストの記載内容も含めて全体確認を行う。

確認		
仕	数	備考

確認	
数	備考

確認	
単	備考

仕 : 積算担当者が設計図書の確認時に記入する。

数 : 積算担当者が積算数量算出書の確認時に記入する。

単 : 積算担当者が単価資料等の確認時に記入する。

備考欄 : 積算担当者が発注者への報告のため、チェック内容のうち、確認方法や対応内容等、特記しておくべき内容等を記入する。

(凡例) : チェック項目 : チェック対象外項目
 : 確認済み - : 対象外

※ 管理技術者 : 業務委託により配置される管理技術者

※ 積算担当者 : 業務委託により配置される積算業務の担当技術者

※ その他積算担当者 : 積算担当者以外の者で配置される積算業務の担当技術者

4. 適用基準

数量算出チェックリストの「基準類」の項目による。

5. 数量チェックシートについて

(1) チェック項目

直接仮設、土工、地業、躯体、外部仕上、内部仕上、金属・仕上ユニットなどに分け、積算数量調書の数量と既に完成された RC 造の事務庁舎の標準的な単位当たりの目安数値との積による数量や、各種算出数量との比較を行い数量の妥当性を確認する。

(2) 運用上の注意

建築工事の数量チェックは、建築面積や延べ面積当たりの数量や略算方式に基づいて行われている。

数量チェックシートは、過去の事務庁舎(RC造)の実績データを基に建築面積や延べ面積当たりの数量を分析し、標準的な目安の数値として示している。なお、異なる用途の建物であっても準用しチェックを行うことができる。

建築物は、固有性が高いため同一規模(面積)の建物であっても様々な要因により単位面積当たりの数量に相違が見られる。

従って、チェックシートに基づきチェックした判定がNOであっても計算ミスがない限り間違いではなく、多め又は少なめとなる理由をチェックすることが重要である。

建物の躯体、外部仕上、内部仕上数量の変動要因には様々なものがあり、以下に主な変動要因を示す。

① 建物の形状

- ・平面に凹凸がある場合

周長率(建物周長/建築面積)が大きくなるにつれ数量が大きくなる。

- ・階高

階高により躯体、外部仕上数量に変動を与える。

- ・外部開口部

外部窓の数、窓の形状(単層・連層)により躯体、外部仕上数量に変動を与える。

② 建物用途

研究施設、住宅施設など間仕切り(部屋数)の多い施設などは、一般的に躯体、内部仕上数量が多くなる傾向にある。

③ 平面形状

延床面積に含まれない部分(ピット・槽類、バルコニー・庇)により、躯体、外部、内部仕上数量に変動を与える。

(3)数量チェック方法

数量チェックは、該当する全てのチェック項目について工種別チェックシートの数量を転記して行う。

① 数量が目安の範囲内である場合（「OK」）

数量が許容範囲内もしくは若干の許容範囲外であれば、ほぼ妥当性が確認できるが、前記の変動要因を考慮して数量の大小の傾向をチェックすることが重要である。

② 数量が目安の範囲内から大きくはずれた場合（「NO」）

上記①によるチェックによるほか、必要に応じて細部(数量算出書)までの確認を行うことが重要であり、以下による。

- ・ 躯体に関連する積算数量(コンクリート、型枠、鉄筋)を階ごと及び部材ごとに整理集計した建築工事躯体集計表により、階別及び部材別の数量のバランスを確認し、異常値がないかの確認を行う。
- ・ 外部仕上の数量は、変動要因に大きく左右されるため必要に応じて概数算出による確認も行う。
- ・ 内部仕上の床、天井のように延床面積とほぼ等しくなる数量については、各階仕上面積計と各階の床面積との比較により異常値がないかの確認を行う。